

令和 6 年度

田原本町教育委員会活動点検評価報告書

(令和 5 年度実施事業分)

令和 6 年 11 月

田原本町教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 3 1 年法律第 1
6 2 号）第 2 6 条第 1 項の規定に基づき、令和 5 年度に田原本町教
育委員会が実施した教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及
び評価の結果について報告します。

令和 6 年 1 1 月 1 9 日

田原本町教育委員会

目 次

○はじめに	1
○教育委員会の運営・活動状況	2
○点検・評価項目	
・ 幼児教育の推進	3
・ 小・中学校教育の推進	5
・ サポート体制の推進	7
・ 学習体制の充実	9
・ 生涯学習環境の充実	11
・ 図書館事業の充実	13
・ 文化・芸術活動の促進	15
・ スポーツ・レクリエーションに親しむ環境の整備	17
・ スポーツ・レクリエーション活動の普及・啓発	19
・ 文化財保護事業	21
・ 唐古・鍵遺跡史跡公園運営事業	23
・ 唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	25

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。

この報告書は、同法の規定に基づき、田原本町教育委員会が行った点検・評価の結果をまとめたものです。

II 点検・評価の基本方針

1 点検・評価の目的

法改正を受け、町教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検・評価し、その結果を議会に報告するとともに、住民に公表することといたしました。

この点検・評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「田原本町第4次総合計画」基本目標1「子育ての願いをかなえるまちづくり」及び基本目標2「潤いや喜びを与える学びとスポーツのまちづくり」の教育関連施策を点検・評価の対象としました。

点検・評価の対象年度は、令和5年度です。

(1) 田原本町教育委員会の運営・活動状況

(2) 「田原本町第4次総合計画」に基づく施策体系ごとの点検・評価(12施策)

3 点検・評価の方法

「田原本町第4次総合計画」に基づく施策体系ごとに、進捗状況の参考となる指標及び実施事務事業の実績を掲載しています。

上記の指標及び実施事務事業の実績を基に、教育委員会で点検・評価を行っています。評価にあたっては、客観性を確保するために、外部の行政経験及び学識経験を有する方から施策や事業についてご意見をいただいております。

【点検評価委員】

(敬称略 五十音順)

役 職	氏 名	備 考
委 員	北野 勝也	行政経験者
委 員	石橋 源一郎	教職経験者

田原本町教育委員会の運営・活動状況

1 教育委員

(令和6年3月31日現在)

職 名	氏 名	職 業	就任年月日	任期満了年月日
教育長	山田 忠志	公 務 員	R 5 . 4 . 1	R 8 . 3 . 31
委 員	眞田 和則	会 社 員	R 2 . 12 . 23	R 6 . 12 . 22
委 員	岡本 春江	無 職	R 1 . 9 . 22	R 9 . 9 . 21
委 員	桝井 歌世	教 員	R 1 . 12 . 22	R 9 . 12 . 21
委 員	山田 育弘	会 社 員	R 3 . 12 . 24	R 7 . 12 . 23

2 教育委員会議の開催状況

- ・教育委員会定例会・・・10回
- ・教育委員会臨時会・・・6回

3 教育委員会議の審議状況

- ・報告事項・・・16件
- ・審議事項・・・33件

4 教育委員の活動状況

- ・定期学校訪問実施（年1回）・・・幼稚園4園・小学校5校・中学校2校
- ・幼稚園・小学校・中学校行事への参加・・・入園式・入学式・運動会・卒園式・卒業式等
- ・各種研修会への参加・・・近畿市町村教育委員研修大会（オンライン）・奈良県市町村教育委員会連合会研修大会・人権教育各種研究大会・青少年健全育成各種研究大会等
- ・各種行事への参加・・・二十歳のつどい等

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	幼児教育の推進			総合計画位置づけ	1-1-1
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課	担当課名	教育総務課

1. 施策概要

めざす 成果目的	幼児の心身の健全な発育を促すため、幼稚園・保育園・家庭が連携し幼児教育の充実を図る。また、遊びを通じた総合的な学びを小学校での教科等の学びに円滑に接続するため、幼児教育と小学校教育の連携を推進する。
施策概要	基礎を培う乳幼児期における教育の推進。安心・安全な教育環境の整備。保護者ニーズに対応するための預かり保育の実施等幼児教育の支援。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度 後期基本計画最終年度	
説明			(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
①	町立幼稚園就園率	%	60	60	60	60	
	対象年齢者に対する町立幼稚園の園児在籍率		44	—	—	—	
②	一時預かり事業(幼稚園型)利用園児数の割合	%	45	50	50	55	
	町立幼稚園における預かり保育の利用率		39	—	—	—	
③							
				—	—	—	

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度 R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
幼稚園運営事業(一部)	教育総務課	46,889	A:高い(義務)	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
幼稚園施設管理整備事業	教育総務課	9,135	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
幼稚園一時預かり運営事業	教育総務課	11,867	A:高い(義務)	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
計		67,891			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☐ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☒ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい
	指標はどちらも目標を下回っている。公立幼稚園の就園率は昨年度とほぼ横ばいである一方、4園で実施した一時預かり事業(幼稚園型)利用率は昨年度32%から39%へ若干増加している。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☐ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☒ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
	令和5年度からは4園全園で長期休業中の預かり保育の実施を自園で開始した。就園率は横ばいだが預かり保育利用率がやや高くなっているのは、長時間保育の必要性がより増していると考えられる。
施策を進める上での問題点・課題	認定こども園のニーズが高いものの、老朽化を含め施設面での制限や課題がある。また慢性的な人員不足により、十分な担任の確保が難しい状況にある。抜本的な事業転換や問題の解消が難しい。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☐ 重点化して推進 ☒ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()				
	幼児期は、その園児の生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なときであるため、地域や家庭と連携し幼児教育の充実を図るとともに、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を進める。各園において適切な園児数と教員配置を行っていくとともに、安心・安全な環境で幼稚園教育を行えるよう、引き続き施設面の修繕・保全に努める。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	幼稚園運営事業(一部)	46,889	65,293	3	現状のまま
	幼稚園施設管理整備事業	9,135	11,847	3	現状のまま
	幼稚園一時預かり運営事業	11,867	15,935	3	現状のまま
【新規】		—	—		—
		—	—		—
	計	67,891	93,075		
内部評価のコメント	令和5年度から保育時間の延長のニーズを受け、4園全園での預かり保育を実施することができた。ただ、全国的にも慢性的な幼稚園教諭や保育士が人員不足になっており、幼稚園運営の根本である人的資源をいかに確保するかが大きな課題である。また、園児数が減少する中、より効果的効率的な保育のため、複式学級の基準を制定した。				
外部評価委員のコメント	幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期ことをしっかりふまえ、さらなる充実に努めてほしい。核家族・夫婦共働きの家庭が大半となる現状のもとで、保育時間延長への願いは強いものがあり、4園全てで長期休業中の預かり保育をスタートされたことは評価できる。子育て支援の一翼を担う幼児教育と保育の時間的・質的向上を目指し、施設面での充実、幼稚園教諭の確保と質的充実、小学校教育との連携などに一層努めていただきたい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	小・中学校教育の推進			総合計画位置づけ	1 - 2 - 1
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課	担当課名	教育総務課

1. 施策概要

めざす 成果目的	児童・生徒に確かな学力、豊かな人間性及びたくましい心身の育成を図るとともに、教育環境の維持・向上を図り、誰もが安全で安心できる学校を実現する。
施策概要	学ぶ力と意欲を伸ばし、豊かな人間性を育む学校教育の推進。安心・安全な教育環境の整備。関係機関との連携。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 9 年度 後期基本計画最終年 度	
説明			(目標／計画) (実績)	(目標／計画) (実績)	(目標／計画) (実績)	(目標／計画) (実績)	
①	「授業は自分にあった教え方になっている」と回答した児童生徒の割合		%	82	83	84	85
	全国学力・学習状況調査から「当てはまる」「どちらかといえ ば当てはまる」の合計		83	—	—	—	
②	「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と回答した児童生徒の割合	%	94	95	95	95	
	全国学力・学習状況調査から「当てはまる」「どちらかといえ ば当てはまる」の合計		93	—	—	—	
③	3小統合校建築に伴う進捗割合	%	20	30	40	80	
	3小統合校建築に伴う進捗割合		20	—	—	—	

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
小学校運営事業	教育総務課	93,567	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校施設管理整備事業	教育総務課	100,368	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
学校給食事業	教育総務課	311,115	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校教育振興事業	教育総務課	7,096	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校運営事業	教育総務課	50,951	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校施設管理整備事業	教育総務課	23,363	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校教育振興事業	教育総務課	9,224	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
事務局運営事業(一部)【ALT派遣事業】	教育総務課	9,504	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		605,188			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☒ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☐ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい 「授業は自分にあった教え方になっている」と回答した児童生徒の割合が前回よりも上昇しており(※巻末)、概ね児童生徒の満足度は高まっているといえる。今後も基礎的・基本的な知識・力を習得し、多様な課題に対し主体的に取り組む意欲や能力を育む取り組みを推進する。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☒ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☐ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 学力向上、学校施設の老朽化、給食における食物アレルギーへの対策、児童生徒の減少に伴う学校配置など、学校を取り巻く課題は多く、また多様化しており、今後もニーズは高い。
施策を進める上での問題点・課題	上記諸問題の他にも、学校運営協議会を中心とした地域との連携、GIGAスクール構想と校務DX化など課題は多い。 学校施設の老朽化や児童生徒の減少といった諸問題を受けて、小学校3校統合事業を推進している。食物アレルギーの対応など諸問題のための小学校給食センターの建築など、ソフト・ハード両面ともに多角的に事業を推進していく必要がある。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☒ 重点化して推進 ☐ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()				
	主体的に考え、情報を総合化して判断・表現し、行動する力の育成のため、基礎的・基本的な知識・技能とともに、自ら学び考える力などの「確かな学力」を育むことができるよう教育内容や教育環境の整備に努める。これまで「再配置基本計画」「基本構想」を策定した小学校3校統合事業においては、「基本計画」の策定を進めるとともに、教員を中心としたプロジェクトチームにおいて具体的な調査研究を行っていく。 小学校の給食では、「小学校給食検討委員会」からの答申を受け、アレルギー対応や地産地消を含めより安心安全な給食提供のため、小学校給食センター建設に向けて事業を推進する。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	小学校運営事業	93,567	102,971	3	現状のまま
	小学校施設管理整備事業	100,368	210,435	3	拡大
	学校給食事業	311,115	335,554	3	拡大
	小学校教育振興事業	7,096	35,781	3	現状のまま
	中学校運営事業	50,951	57,417	3	現状のまま
	中学校施設管理整備事業	23,363	37,205	3	現状のまま
	中学校教育振興事業	9,224	13,534	3	現状のまま
	事務局運営事業(一部)【ALT派遣事業】	9,504	9,504	3	現状のまま
	【新規】	—	—		—
		—	—		—
	計	605,188	802,401		
内部評価のコメント	教員の働き方改革のため教員業務の軽減と支援体制の整備を図り、教員にはよりこどもに注視できる体制の構築を進めている。ICT教育のさらなる推進を目指し、今後の端末更新や環境整備に取り組む。また、学校統廃合等も考慮しながら、学校施設の危険箇所を洗い出し、より効率的な修繕・改修を進めていくことが重要である。 3小統合事業や小学校給食センター建設事業には、地域や保護者の理解が不可欠である。				
外部評価委員のコメント	指標の実績が高い水準で肯定的に示していることは、現場教員の取り組みによるところが大きく評価できる。取り巻く環境がやニーズが多様化し変化する中、現場のプロである教員が学力向上や教育内容の充実に一層注力できるよう、より丁寧に現場の声を聞き、教員の働き方改革も進めつつ、支援体制の充実に努めてもらいたい。施設設備面での課題も多くあるが、限りある財源の中、現場のニーズを十分に把握して取り組んでいただきたい。 小学校3校統合や小学校給食センター建設事業は地域や保護者の理解が大前提であり、より丁寧な説明を心がけて取り組んでいただきたい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	サポート体制の推進			総合計画位置づけ	1-1-1 1-2-1
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課	担当課名	教育総務課

1. 施策概要

めざす 成果目的	学習障害(LD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)及び広汎性発達障害(PDD)等の発達障害を含めた障害のある幼児・児童・生徒の支援体制を整備し、インクルーシブ教育の推進を図る。
施策概要	幼児・児童・生徒の個々の発達に応じた適切な教育の推進。安心・安全な教育環境の整備。就学の支援。関係機関との連携。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度 (目標／計画) (実績)	R 6 年度 (目標／計画) (実績)	R 7 年度 (目標／計画) (実績)	R 8 年度 後期基本計画最終年 度 (目標／計画) (実績)	
説明							
①	特別支援教育研修の開催数	回	2	3	4	5	
	特別支援教育に関する研修の実施回数		2	—	—	—	—
②	カウンセリングや相談を利用した児童生徒等(保護者を含む)の数	人	255	255	260	260	
	いじめ・不登校対策指導員(町費)が実施するカウンセリングを利用した児童生徒等の人数		442	—	—	—	—
③							
				—	—	—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
幼稚園運営事業(一部)	教育総務課	64,620	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校サポート体制支援事業	教育総務課	29,073	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校サポート体制支援事業	教育総務課	17,278	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		110,971			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☒ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☐ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい
	こども支援員の各幼稚園・小中学校への配置により、一人ひとりの子どもの特性に応じた教育の充実につながっている。 また、教員やこども支援員を対象にした研修を実施し、情報の共有と全体のボトムアップを図っている。 中学校に配置したスクールカウンセラーによるカウンセリングはニーズも高く、目標値以上の回数となっている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☒ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☐ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
	近年、特別な支援を要する園児児童生徒及び通常学級で個別の指導・支援を必要とする子どもが増加している。 一人ひとりの個性や発達、ニーズに応じた支援や特別支援教育の充実がますます求められている。小学校におけるカウンセリングのニーズも高くなっている。
施策を進める上での問題点・課題	支援を要する幼児児童生徒は、特別な支援を要する者だけにとどまらず、外国から来日した児童生徒といった日本語の指導を要する者や、不登校やヤングケアラーなどの家庭との協力を要する者など多岐にわたるとともにますます多くなっており、総合的・多面的に支援を行っていく必要がある。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☒ 重点化して推進 ☐ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()				
	発達に課題があったり、不登校の児童生徒が年々増えつつある現況から、教育総務課・生涯教育課で実施している「やすらぎ教室」「やすらぎ相談」などの各事業との連携強化を行っていく。これら関係機関との連携も含め、ハード整備や学びの居場所の確保できる支援や、保護者を含めた相談体制づくりなど児童生徒を取り巻く環境整備を行って、重点的に施策を進めていく。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	幼稚園運営事業(一部)	64,620	56,158	3	現状のまま
	小学校サポート体制支援事業	29,073	44,639	3	現状のまま
	中学校サポート体制支援事業	17,278	18,377	3	現状のまま
【新規】		—	—		—
		—	—		—
計		110,971	119,174		
内部評価のコメント	特別な支援を要する園児児童生徒の割合は増加傾向にある上、個性や発達に応じた支援が求められている。ただし、学校現場からは、特別支援教育に対する人的措置の要望が増加しており、国の配置基準に基づく教職員数だけでは十分な支援が困難な状況になっている。 こども支援員の配置により一人一人に合った支援を進めるほか、相談体制や関係機関との連携体制など、多方面で充実を図っていく。				
外部評価委員のコメント	ひとりひとりの特性に寄り添った特別支援教育と支援のあり方が一層求められている現状を踏まえ、関係機関との連携を密にし、人材の確保など指導体制と支援の充実さらに努めていただきたい。 「心の居場所」を求める子ども達が増加しておりカウンセリングの実績が大幅に目標値を上回っていることからより一層の充実が求められている。様々な家庭状況も含めたこどもや保護者に対する相談・支援体制の充実とともに、やすらぎ教室・相談の機能強化・連携強化を進めてもらいたい。いじめ、不登校や日本語指導など多面的な支援を継続して充実させてもらいたい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	学習体制の充実			総合計画位置づけ	3-1-1 3-1-2
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	生涯教育課

1. 施策概要

めざす 成果目的	学びたい人が学びたい時に学べるよう、様々な学習の機会や情報を提供し、人と人との繋がりを広げるとともに、自己を向上させることで地域・町づくりに繋げる。
施策概要	各種教室・講演会・研修会等を開催して、様々な学習機会を提供する。また、子どもを対象とする教室を開催する。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 9 年度 後期基本計画最終年度	
説明			(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
①	公民館教室の参加者数	人	1,720	1,730	1,740	1,750	
	公民館教室の参加者数		2,608	—	—	—	—
②	放課後子ども教室の参加者数	人	960	970	980	990	
	放課後子ども教室の参加者数		2,240	—	—	—	—
③							
				—	—	—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
公民館学習事業	生涯教育課	2,960	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
青少年健全育成推進事業	生涯教育課	14,021	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
人権教育指導事業	生涯教育課	3,557	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		20,538			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☒ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☐ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☒ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☐ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 住民に学習活動の場を提供する意味では、文化・芸術の体験、趣味や教養を深める講座等を引き続き進めていく必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	公民館学習は多くの町民の方の文化活動に資するものであり、これまで開催してこなかった教室や講座を検討、実施していく。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☐ 重点化して推進 ☒ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()				
	参加者の高齢化がみられ固定化が進んでいることから、今までに参加してもらえなかった方々が興味をもってもらえるような教室や講座を工夫して進めていく。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	公民館学習事業	2,960	3,793	3	現状のまま
	青少年健全育成推進事業	14,021	18,257	3	現状のまま
	人権教育指導事業	3,557	4,436	3	現状のまま
【新規】		—	—		—
		—	—		—
	計	20,538	26,486		
内部評価のコメント	公民館学習の様々な教室や講座については、参加者数を見ながら見直しをおこなっていく必要がある。 青少年健全育成事業については、少子化が進む中、また保護者の負担もみられるので、事業について新たな進め方を考えていく時期である。				
外部評価委員のコメント	実績が目標を上回っているのは社会教育へのニーズが高いことを物語っているといえる。公民館学習については、ニーズの把握や内容検証、見直し検討と周知を十分に行った上で実施してもらいたい。また、誰もが参加しやすい雰囲気づくりに努めていただきたい。 青少年健全育成においては、これまでの本事業の成果と当事者の意見を踏まえ、マンネリに陥らないよう内容の前向きな検討と見直しを行い、充実させてもらいたい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	生涯学習環境の充実			総合計画位置づけ	3 - 1 - 3
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	生涯教育課

1. 施策概要

めざす 成果目的	安全で快適に利用できる施設環境の充実を図ることにより、住民の学習活動が活性化する。
施策概要	田原本青垣生涯学習センターは、生涯学習施設として町民の方々に活用されており、安全・快適に利用できるように、環境整備を行う。また、学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲において、地域住民に開放する。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 9 年度 後期基本計画最終年 度	
説明			(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
①	公民館の利用件数	件	2,670	2,680	2,690	2,700	
	公民館の利用件数		3,792	—	—	—	
②	学校施設利用申込件数	件	2,230	2,240	2,250	2,260	
	学校施設利用申込件数		2,649	—	—	—	—
③							
				—	—	—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
青垣生涯学習センター管理事業	生涯教育課	110,848	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		110,848			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☒ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☐ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい 公民館利用件数及び学校開放件数ともに指標の目標を上回っている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☒ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☐ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 青垣生涯学習センターは町の講座や教室を開催するだけでなく、個人やサークル等が活動する拠点になっている。 建築後20年近くが経過し、修繕箇所が増えてきている。 今後も生涯教育の場として機能するよう、継続した管理・運営を行う。
施策を進める上での問題点・課題	雨漏りなど建物の劣化や設備の更新時期の到来、劣化による修繕も発生しているため、施設の利用に支障が生じないよう適切に対応していく。 設備・備品の入れ替えや修繕については、優先順位を付けて計画的に進めていく。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☒ 重点化して推進 ☐ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()				
	青垣生涯学習センターは公民館、弥生の里ホール、図書館を有する中核施設である。引き続き、維持管理を適切に行い利用の促進を図る。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	青垣生涯学習センター管理事業	110,848	116,306	4	拡大
【新規】		—	—		—
		—	—		—
	計	110,848	116,306		
内部評価のコメント	青垣生涯学習センターは開館後20年が経過し、設備等が古くなってきており、修繕箇所が増えてきている。引き続き、計画的に更新・修繕を行い、適切に対応していく。				
外部評価委員のコメント	センターの修繕などの対応に努めていただき、町民が誰でも安心安全に施設が利用でき、快適で魅力ある施設であり続けるよう、適切に管理運営を進めていただきたい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	図書館事業の充実			総合計画位置づけ	3-1-4
部名	教育委員会	主担当課名	図書館	担当課名	図書館

1. 施策概要

めざす 成果目的	町民が読書の楽しみを知り、趣味や生きがいを持って豊かな生活が送れるように資料を提供し、自発的な学習の支援を行うとともに、地域の情報拠点としての図書館サービスの充実を図る。
施策概要	郷土資料、視聴覚資料を含む多種多様な分野の資料を収集し、蔵書の充実を図る。学校等と連携を図り、子どもの読書活動を推進する。各種イベントや広報活動を行い、利用の促進を図る。多様なレファレンスに対応するため、資料に精通した職員の育成に努める。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 9 年度 後期基本計画最終年度	
説明			(目標／計画) (実績)	(目標／計画) (実績)	(目標／計画) (実績)	(目標／計画) (実績)	
①	蔵書冊数		冊	216,000	217,000	218,000	219,000
	年度末の蔵書冊数		219,780	—	—	—	
②	児童書の貸出冊数	冊	162,000	144,000	144,500	145,000	
	年間の個人・団体・相互貸借 された児童書の貸出冊数		143,859	—	—	—	
③	町内実利用者数	人	4,400	4,600	4,800	5,000	
	1年間で実際に貸出された町 内の利用者数		4,540	—	—	—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
図書館収集提供事業	図書館	22,345	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
子ども読書活動推進事業	図書館	74	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
図書館利用促進事業	図書館	176	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
図書館運営管理事業	図書館	9,298	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		31,893			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☒ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☐ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい 令和5年6月に貸出規則を改正し、町外利用者の利用を制限した。(貸出冊数10冊→5冊、予約不可) そのため、指標②「児童書の貸出冊数」は目標に達しなかった。しかし指標③「町内実利用者数」は目標を達することができているので、規則改正をしたことにより町民にとって利用しやすい図書館になってきたと考えられる。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☐ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☒ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある スマホ等で手軽に情報を収集・発信できるようになり、フェイクニュースが問題となることも増えた。そのような状況のなかで、図書館は、体系的に情報を得るための場として機能する事がますます求められる。そのためには、資料を収集するだけでなく、情報が古くなった資料の廃棄や本棚の整理(見出しや展示等)をしっかりと行う必要がある。 また、学校図書館支援の充実を強く求められている。
施策を進める上での問題点・課題	子どもの読書推進のためには学校図書館の充実が非常に重要であるが、今以上の支援を行うためには現状の職員数では足りない。さらなる人員の確保と育成が必要である。 図書館は読書を楽しむだけでなく、日常の困りごとを解決したり仕事の役に立つ情報を得ることができる施設であることを、もっと町民に周知する必要がある。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☐ 重点化して推進 ☒ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()				
	学校図書館支援のため各学校と話し合いの場を設け、ボランティアの活用などが可能かどうか検討する。 青垣生涯学習センター開館20周年記念事業を行い、町民の来館を促進する。 各課と連携したパネル展示等を行うことで幅広い情報提供に努め、読書だけではない図書館の魅力をPRする。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	図書館収集提供事業	22,345	20,933	5	現状のまま
	子ども読書活動推進事業	74	50	5	現状のまま
	図書館利用促進事業	176	181	4	現状のまま
	図書館運営管理事業	9,298	8,112	4	現状のまま
【新規】		—	—		—
		—	—		—
計		31,893	29,276		
内部評価のコメント	学校等で図書館本の活用が多くなっており図書館の蔵書に期待が寄せられている。読み聞かせや学校への貸出が行えるよう児童書の資料等を充実させ、子どもの読書支援を強化していく必要がある。 内容を見直しながら読書啓発イベントや展示を引き続き行い、子どもだけでなく大人に対しても資料の活用をしてもらえるような工夫が重要である。				
外部評価委員のコメント	当町図書館は近隣図書館と比較して貸出件数が多く、また施設や蔵書等も充実しており、我が町が誇れる文化施設のひとつである。こどもや若者の本離れが社会的な問題とされる中、施設蔵書を生かし、図書館へ行きたい！と思わせる活動をおこなっていただいたい。 また、小中学校図書館においても、担当教員との連携を検討し、工夫して事業展開をしてもらいたい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	文化・芸術活動の促進			総合計画位置づけ	3 - 1 - 5
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	生涯教育課

1. 施策概要

めざす 成果目的	弥生の里ホールの利用促進を図り、住民が多様な文化・芸術に触れられる機会を提供する。
施策概要	弥生の里ホールでは、質の高いイベントを開催する。また、文化団体や社会教育関係団体の文化に関わる活動を支援し、日頃の文化活動の発表の場として文化祭を開催する。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 9 年度 後期基本計画最終年 度	
説明			(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
①	弥生の里ホールの利用件数	件	310	320	330	340	
	弥生の里ホールの利用件数		316	—	—	—	—
②							
				—	—	—	—
③							
				—	—	—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
文化活動推進事業	生涯教育課	4,703	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
弥生の里ホール運営事業	生涯教育課	3,747	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		8,450			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☒ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☐ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい ホールの利用件数は微増ではあるが目標を上回っている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☐ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☒ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある より質の高い芸術や芸能等のホール事業を開催し、幅広い世代の方に楽しんでいただけるイベントを提供する。文化祭は、学習の成果を発表し、他の人の作品や活動にふれる場でもあり、仲間との人間関係を育む場でもある。
施策を進める上での問題点・課題	ホール事業、文化祭等の各種イベントについては、SNSの活用も含め幅広い周知に努めていきたい。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

〔複数選択可〕 ☐ 重点化して推進 ☒ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()					
施策の方向性	ホールの稼働率向上のため、より充実したホール事業を展開し、貸館事業の充実に努める。				
施策を 構成する 主要な事務事 業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	文化活動推進事業	4,703	4,981	3	現状のまま
	弥生の里ホール運営事業	3,747	6,377	3	現状のまま
【新規】		—	—		—
		—	—		—
計		8,450	11,358		
内部評価の コメント	文化祭の展示作品を町ホームページに掲載するなど、イベントの周知に努める。				
外部評価委 員のコメント	弥生の里ホールにおいては、他課や各種団体とも連携を進め、幅広い世代のニーズに応じて質の高い催しを多く企画・実施してもらいたい。また、啓発・広報活動をより一層充実してもらいたい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	スポーツ・レクリエーションに親しむ環境の整備			総合計画位置づけ	3-2-1
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	生涯教育課

1. 施策概要

めざす 成果目的	体育施設の維持管理に努め、住民が身近な地域で安全にスポーツが行えるようにする。
施策概要	住民のスポーツ活動の拠点として、各体育館・健民運動場及びテニスコート等の環境の整備を行う。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 4 年度 後期基本計画最終年 度	
説明			(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
①	体育館の利用件数	件	2,500	2,550	2,600	2,650	
	体育館の利用件数		2,354	—	—	—	
②	テニスコートの利用件数	件	1,820	1,840	1,860	1,880	
	テニスコートの利用件数		1,898	—	—	—	
③	健民運動場利用件数	件	310	320	330	340	
	健民運動場の利用件数		265	—	—	—	

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
体育施設管理事業	生涯教育課	21,555	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地があ るが時間が必要
計		21,555			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☒ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☐ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい 中央体育館が新型コロナワクチン接種会場となっていたが、本来の利用が出来るようになった。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☐ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☒ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 施設全体に老朽化が進んでいるため、計画的に点検や改修を行い、利用に支障が生じないよう、安全で快適にスポーツを楽しむことのできる環境を整える。
施策を進める上での問題点・課題	公共施設の廃止・統合も含めた再編の議論があるなか、田原本町公共施設等総合管理計画において、田原本町やすらぎ体育館については、設備の改修は行わず、田原本町中央体育館へ集約する。田原本町中央体育館においては、国民スポーツ大会の会場地として使用する想定がある中で、施設の老朽化対策を考えていく必要がある。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☒ 重点化して推進 ☐ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()				
	安全に施設利用ができるよう、体育施設の改修・補修などの適切な管理・運営に努める。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	体育施設管理事業	21,555	23,272	3	現状のまま
【新規】		—	—		—
		—	—		—
	計	21,555	23,272		
内部評価のコメント	体育施設を適切に利用できるよう、優先順位を検討し、計画的な改修を行う。				
外部評価委員のコメント	老朽化する施設に対し、点検・修繕等を計画的に行い、適切な維持管理を通して、誰もが安全に安心して利用できる施設としてもらいたい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	スポーツ・レクリエーション活動の普及・啓発			総合計画位置づけ	3 - 2 -2
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	生涯教育課

1. 施策概要

めざす 成果目的	子どもから高齢者まで幅広い年齢層の住民が、多種多様なスポーツに親しめるよう、関係機関と連携し、気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加できるようにする。
施策概要	卓球やバドミントン等のスポーツ教室の開催や総合競技大会、ジョギング大会を開催する。また、スポーツ協会、スポーツ少年団の活動に対する助成を行う。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 9 年度 後期基本計画最終年 度	
説明			(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
①	スポーツ教室の参加者数	人	110	120	130	140	
	スポーツ教室の参加者数		93	—	—	—	
②							
				—	—	—	
③							
				—	—	—	

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
社会体育振興事業	生涯教育課	2,648	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
スポーツ教室開催事業	生涯教育課	6,614	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
総合競技大会開催事業	生涯教育課	1,043	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
ジョギング大会開催事業	生涯教育課	109	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		10,414			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☐ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☐ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☒ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい 中央体育館が新型コロナワクチン接種会場となっていたが、本来の利用が出来るようになった。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☒ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☐ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある スポーツ・レクリエーションの目的や活動内容が多様化している一方、運動機会の減少や体力の低下が指摘されている中、住民の健康志向は高く、スポーツに参加することは、体力づくり・健康づくりに効果が期待できる。
施策を進める上での問題点・課題	教室の指導者が高齢化しつつあり、指導者の確保が課題である。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☐ 重点化して推進 ☒ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	社会体育振興事業	2,648	3,464	3	現状のまま
	スポーツ教室開催事業	6,614	6,780	3	現状のまま
	総合競技大会開催事業	1,043	1,398	3	現状のまま
	ジョギング大会開催事業	109	146	3	現状のまま
	【新規】	—	—		—
		—	—		—
	計	10,414	11,788		
内部評価のコメント	中央体育館が新型コロナワクチン接種会場となっていたが、本来の利用が出来るようになり、引き続き、より多くの教室や大会に参加していただけるよう広報周知に努めていく。				
外部評価委員のコメント	幅広い世代が多様なスポーツへ参加し、健康づくりやコミュニケーションの場となることを目的として、多くの町民が参加できるよう、多種多様なニーズに対応した施策を展開してもらいたい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	文化財保護事業			総合計画位置づけ	3-3-1
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課	担当課名	文化財保存課

1. 施策概要

めざす 成果目的	文化財保護の精神と認識を深め、国・県・町指定の有形文化財及び史跡を後世まで貴重な財産として残す。
施策概要	唐古・鍵遺跡と黒田大塚古墳内の公有地の管理及び史跡の現状変更等、進達業務。その他国・県・町指定文化財所有者に防犯、防災の指導。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 9 年度 後期基本計画最終年 度	
説明			(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
①	町文化財指定件数(累計)	件	12	13	14	15	
	田原本町指定文化財の指定件数の累計		10	—	—	—	
②	町ホームページ「指定文化財」の閲覧件数	件	4,750	4,750	4,750	4,750	
	田原本町ホームページに掲載されている各種指定文化財のページ閲覧数		5,891	—	—	—	
③							
				—	—	—	

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
文化財保護事業	文化財保存課	9,569	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	C:見直す余地がない
計		9,569			

3. 施策の分析

達成度	☐ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☒ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☐ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい
(目標の達成状況はどうか)	各所有者に対して連絡を密にとり、防災・防犯状況の確認を継続的に実施しただけでなく、指定文化財所有者からの管理に関する相談なども随時対応した。また、県指定文化財の修理事業では、地元負担金をはじめとして民間助成や行政の補助金も活用して修理を進めている。
必要性	☐ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☒ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
(ニーズは今後どう変化するか)	本町住民の郷土愛の根幹をなす文化財を確実に後世に継承していくため、所有者には文化財の維持管理に加えて防災・防犯に務めていただく必要があり、また、行政としても適宜助言・補助をしていく必要がある。また、未指定の文化財についても、散逸の防止や記録保存など、適切な処置を講じていく必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	文化財は地域の財産であり、地域のコミュニティ形成の核ともなりうるものである。それゆえ、地域住民だけでなく、町外から本町を訪れる方々への認知を広げていくことにつとめることで、保存・継承に向けて意識を高めていくよう周知していかなければならない。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

〔複数選択可〕 ☒ 重点化して推進 ☐ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()					
施策の方向性	文化財の適切な管理を行うため、引き続き所有者と連絡を密におこない、管理上の問題点を把握していく。事業によっては補助金を交付する。 町指定文化財について、指定案件を選定し、指定文化財を増やしていく。				
施策を 構成する 主要な事務事 業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	文化財保護事業	9,569	11,412	4	現状のまま
【新規】		—	—		—
		—	—		—
	計	9,569	11,412		
内部評価の コメント	令和5年度に、文化財の公開・活用に係る事業に対し補助できるよう「田原本町文化財保存事業補助金交付要綱」を改正した。文化財の公開・活用を積極的に実施することで、文化財の保護につなげていきたい。				
外部評価委 員のコメント	文化財はその地域・住民にとってかけがえのない宝であり、その歴史やつながりの基盤となるものである。当町に存在する多種多様な文化財を後世に伝えていくため、その価値をより多くの町民に周知していただく施策が重要である。 指定文化財については適切に維持管理していただくため相談・助言等の支援体制の充実を行ってほしい。また、未調査・未整理の文化財の調査研究を通して、指定を進めてほしい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	唐古・鍵遺跡史跡公園運営事業			総合計画位置づけ	3-3-1
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課	担当課名	文化財保存課

1. 施策概要

めざす 成果目的	弥生時代の追体験ができる公園として、またより多くの来園者に親しまれる憩いの場、コミュニティの場として賑わいのある活用事業を推進する。
施策概要	賑わい創出の場としてイベントを開催する。また、小・中学校の学習の場として活用する。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 9 年度 後期基本計画最終年 度	
説明			(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
①	イベントの開催件数	件	15	15	15	15	
	唐古・鍵遺跡史跡公園で実施した指定管理者自主事業イベント件数及び田原本町主催、共催イベント件数		20	—	—	—	
②	唐古・鍵遺跡史跡公園来園者数	人	90,000	90,000	90,000	90,000	
	遺構展示情報館来館者数+毎日10時、15時来園者数		133,034	—	—	—	
③							
				—	—	—	

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
唐古・鍵遺跡史跡公園運営事業	文化財保存課	42,497	A:高い(義務)	A:目標よりも大きな成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		42,497			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☒ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☐ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☐ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい 指定管理者による積極的な情報発信と自主事業の開催もあり、史跡公園の広い面積を活用したイベントが多く開催されたため、目標を大きく上回る来園者があった。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☒ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☐ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 奈良県中央部において様々なイベント会場となりうる場所という認識が広まっており、歴史教育の場としての活用以外でも利用が進んできた。また、今後もニーズがさらに多様化していくことが予想される。
施策を進める上での問題点・課題	道の駅レスティ唐古・鍵と唐古・鍵遺跡史跡公園の一体運用により、以前と比較して両施設及び指定管理者の強みが活きやすい状況となり、来園者数も10万人を大きく超えた。今後さらに連携を深め、唐古・鍵遺跡史跡公園の活用を促進していく。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☐ 重点化して推進 ☒ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()				
	来園者満足度を高めるため、指定管理者とともにボランティアの支援や育成に努める。また、指定管理者の活動により、より唐古・鍵遺跡史跡公園周辺の賑わいが作れるよう、行政の側からも必要な調整・助言・支援をおこなう。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	唐古・鍵遺跡史跡公園運営事業	42,497	43,167		
【新規】		—	—		—
		—	—		—
計		42,497	43,167		
内部評価のコメント	道の駅レスティ唐古・鍵との連携をこれまで以上に強化し、道の駅の来訪者が史跡公園を併せて訪れる好循環の創出を図っていく必要がある。				
外部評価委員のコメント	町内外の人々から親しまれる学習と憩いの場となっており、多くのイベントを通して来園者が10万人を超えたことは評価できる。さらなる新規来園者やリピーターが増加するよう、史跡公園である強みも活かしながら魅力的な公園づくりを推進していただきたい。また、本来の歴史学習の場としての活用の充実を図ってもらうとともに、交通手段の検討もお願いしたい。				

施策評価シート（対象：R 5 年度実施施策）

施策名	唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業			総合計画位置づけ	3-3-1
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課	担当課名	文化財保存課

1. 施策概要

めざす 成果目的	ミュージアムの来館者が快適に観覧でき、満足していただけるようにする。また、文化財に対する理解・愛着を深め、学習意欲・愛護精神を育成する。
施策概要	ミュージアムの適切な管理や受付業務を行う。イベントや企画展、講座等を開催し、情報発信を行う。

2. 実施結果

指標名		単位	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 9 年度 後期基本計画最終年 度	
説明			(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	(目標／計画)	
			(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	
①	イベントの開催件数	件	8	8	8	8	
	講演会、ワークショップ等の 開催件数		4	—	—	—	
②	唐古・鍵考古学ミュージア ムの来館者数	人	6,000	6,000	6,000	6,000	
	常設展の入館者数+企画 展入館者数		6,920	—	—	—	
③							
				—	—	—	

施策を構成する主な事務事業の評価結果（評価対象年度R 5 年度）

事務事業名	担当課名	R 5 年度事業 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	文化財保存課	3,535	A:高い(義務)	B:概ね目標の成 果が得られた	B:見直す余地があ るが時間が必要
計		3,535			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	☒ A 最終目標(R8)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている ☐ B 最終目標(R8)達成に向け、順調に成果があがっている ☐ C このままでは、最終目標(R8)達成が難しい 来館者数は、コロナ禍の年と比較して増加に転じ、目標値は超えたものの、講演会・ワークショップ等の開催件数は目標を下回った。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	☐ A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある ☒ B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない ☐ C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 田原本町が保管する文化遺産を直接的に公開する施設であることから、積極的な情報発信と事業展開を行うことで、多様な人々が来館するきっかけづくりをしていく必要がある。また、令和5年8月に実施した「バーチャル現地説明会@宮古平塚古墳」では、唐古・鍵バーチャルミュージアムを活用し、YouTubeでのライブ配信を実施した。オンラインコンテンツを活用した情報発信方法について今後も模索していく必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	ミュージアムと離れた位置にある史跡公園・道の駅の指定管理者と連携した事業展開と広報が課題である。各施設がもつ性格の違いを活かした事業展開とすみ分けを図りつつ、明確に住民へ伝えられるかも課題として挙げられる。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 ☒ 重点化して推進 ☐ 内容を見直して推進 ☐ その他 ()				
	唐古・鍵バーチャルミュージアムをはじめとしたオンラインコンテンツも活用し、これまで行ってきた事業よりも広範な層に対して田原本町の文化遺産情報に触れられるような働きかけを行う。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R 5 年度 決算(千円)	R 6 年度 予算(千円)	優先性	R 6 に向けた経営資源 (事業費)の方向性
	唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	3,535	3,418	4	現状のまま
	【新規】	—	—		—
		—	—		—
	計	3,535	3,418		
内部評価のコメント	展示品の多くが国重要文化財に指定されており、展示品を適切に維持管理していく必要がある。また、近年注目されている探求的な学びを展開するための社会装置として、地域の展示施設は主要な役割を担うことが可能と考えられる。これまで開催してきた企画展やこれに付属するイベント・ワークショップといった対面を基本とする活動だけでなく、唐古・鍵バーチャルミュージアムなどのWebコンテンツを活用して、多様な主体に対して田原本町の文化遺産の情報を発信していく必要がある。				
外部評価委員のコメント	展示品や収蔵品の重要性をより多く町内外の人々が知り理解していただくため、常設展だけでは展示しきれない資料や最新の結果を紹介する場として重要な企画展、各講座、啓発、PR活動、史跡公園との連携など各施策を進めていただきたい。 近年のバーチャルミュージアムや動画サイトでの情報発信は現代的な取り組みとして大いに評価でき、実物資料をもとにした実際の体験的学習とともに取り組んでもらいたい。また、学校との連携にもさらに取り組んでもらいたい。				